

# 平成27年度 政務調査費 先進都市調査報告書

会派名	市政協同
議員名	我妻静夫・古澤孝市・徳中嗣史・金濱元一・南川達彦・早川昇三・岡田健一 黒光ひさ・鈴木和彦
調査実施年月日	平成27年7月3日
調査先 自治体名等	日本移動式水素ステーションサービス
調査項目	移動式水素ステーションについて
調査目的	本市で移動式水素ステーションが導入される予定である為、先進企業の運営状況等の調査
報告内容 実施したこと	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 視察先 「ニモヒス水素ステーション九段」 東京都千代田区三番町6</li> <li>2. 視察内容 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)会社概要について</li> <li>2)事業概要について</li> <li>3)設備導入にあたっての国や自治体の支援について</li> <li>4)性能・構造について</li> </ol> </li> </ol>
感想（まとめ） 本市へ生かせること等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会社の概要 豊田通商と岩谷産業、太陽日酸の3社共同で、燃料電池車(FCV)の需要の高まりに応じてステーションの拡充を目的に平成27年2月6日に設立。</li> <li>2. 事業概要 移動式水素ステーションはトラックを移動しながら充填するものではなく、決まった場所に専用トラックが水素を運び、そこで水素の充填を受ける。移動式水素ステーションは定置式と比較して「設置コストが低いこと」「土地の確保が容易であること」「工期が短いこと」の3つの点で有利である。移動式ステーションの設置コストは2～3億円、定置式では5億円と約1/2となる。また、移動式ステーションは平坦で、ある程度の広さがあれば設置可能で高圧ガス保安法における距離規制を守り、敷地境界や道路境界から8m以上離れていれば設置でき、定置式と比較して3割程度で済む。移動式ステーションは通常、外部から電力や水、ガスの供給を受けない為、特別な造成や配管工事などが不要で建設工期でも定置式の6割程度となる。今回視察した車両は電源を必要としていた。九段ステーションの営業は毎週月～金曜日とし、土・日・祝日は休みとしている。販売価格は1,200円/kgとなっている。車両は毎日川崎市の工場から移動している。水素の取り扱いは高圧ガス保安法に定める製造所の許可、および資格を有する人による運営体制が必要である。</li> <li>3. 設備導入にあたっての国や自治体の支援 2014年度の燃料電池自動車水素供給設備設置事業の交付は、拠点ごとに1億8千万円の補助金(水素供給能力100Ncm<sup>3</sup>以上300Ncm<sup>3</sup>未満の小規模設備として)</li> <li>4. 性能・構造 機器搭載車両は25トントラック、圧縮機能力は100Ncm<sup>3</sup>/h、蓄圧器は2本(常用圧力82.0MPa、40.0MPa、内容量300L/本)、蓄圧器の素材は炭素繊維強化プラスチック(C-FRP)製、水素供給能力は5Kgを3分程度、1時間で2台充填可能。 今回の視察により、本市で導入される予定の移動式水素ステーションとの比較対象ができた。また、運営方法等今後の参考となった。</li> </ol>